

原爆被爆者の白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫の罹患率データセット：1950–2001

この文書は原爆被爆者の寿命調査（LSS）における白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫の罹患率の解析に用いられた1950–2001年の追跡調査データについて説明するものである。これらの解析結果は*Radiation Research*誌に掲載された論文の中で説明されている（Hsu WL, Preston DL, Soda M, Sugiyama H, Funamoto S, Kodama K, Kimura A, Kamada N, Dohy H, Tomonaga M, Iwanaga M, Miyazaki Y, Cullings HM, Suyama A, Ozasa K, Shore RE, Mabuchi K: The incidence of leukemia, lymphoma and multiple myeloma among atomic bomb survivors: 1950–2001. *Radiat Res* 2013; 179(3):361–82）。

公表されたデータのファイルは以下の通りである。

lsshempy.csv	白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫罹患率データファイル、変数名を含んだ1行のヘッダーを持つコンマ区切りのテキストファイル
LSS leuk lymphoma mm incidence.amf	データを読み取り、悪性腫瘍の個々のカテゴリおよび複合カテゴリについて当該論文で使用された基礎的モデルを当てはめるためのEpicure（AMFIT）コマンドスクリプト
LSS leuk lymphoma mm incidence.log	上記プログラムにより作成されたログファイル

データセットは、人年、症例数、ならびに各被爆者のデータから構築した要約データを詳細な表にしたものである。解析の対象となる集団には線量が分かっている113,011人の被爆者が含まれる。各被爆者のデータは都市、性、個々の被爆者の非加重合計遮蔽カーマが4 Gyを超えるかどうか、地上距離、被爆時年齢、到達年齢、暦時間および骨髄線量で層化した。

ファイルは、一つの層に付き一つのレコードを備えるコンマ区切りの数値ファイルである。各ファイルの第一番目のレコードには、変数名が入っている。これらのファイルは、SAS、Stata または Epicure などの統計パッケージに容易に読み込むことが可能である。レコード数の関係で、Excel のバージョンによっては当該ファイルの全レコードを読むことができないかもしれない。

これらのデータを研究報告書や業績報告書など、何らかの出版物のための解析の基盤として

使用する場合には、原稿に謝辞を加えなければなりません。謝辞は以下の通りとします。

用いたデータは広島および長崎の放射線影響研究所(放影研)から入手したものである。放影研は、日本の厚生労働省（厚労省）ならびに米国のエネルギー省（DOE）により資金提供を（後者については、その一部を米国学士院に対する DOE 研究助成金 DE-HS0000031 を通じて）受けている公益財団法人である。この報告書に示した結論は著者のものであり、必ずしも放影研またはその資金提供機関の判断を反映するものではない。

これらのデータを利用して書いた論文の別刷りを1部、下記宛にお送りください。

〒732-0815
広島市南区比治山公園5-2
放射線影響研究所
情報技術部 図書資料課 資料係

これらのデータは放影研ホームページより入手可能です (<http://www.rerf.jp/>)。

詳細説明：

LSS 白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫の人年表 (1950–2001)

ファイル名：lsshempy.csv

フォーマット：ASCII text、コンマ区切り数値、変数名を第1列に示す。

ファイルの大きさ：38,579 レコード（一つの変数名ヘッダーレコードを含む）

基本的説明：転出入について補正した 3,842,918 追跡人年に基づく、120,005 人（線量不明（mar_ad10 = -100）の人を含む）における 1,012 例のがん症例に関するデータ

名称	説明
City	都市 1：広島 2：長崎
Sex	性別 1：男性 2：女性
Un4gy	遮蔽カーマ合計（ガンマ線＋中性子線）が 4 Gy 未満かどうかの指標 0：4 Gy 未満 1：4 Gy 以上
Distcat	距離区分 1：<3000 m 2：3000-<15000 3：NIC
Agxcat	被爆時年齢区分 1:0-<5 years old 2:5-<10 3:10-<15 4:15-<20 5:20-<25 6:25-<30 7:30-<35 8:35-<40 9:40-<45 10:45-<50 11:50-<55 12:55-<60 13:60-<65 14:65-<70 15:70-<100
Agecat	到達年齢区分 1:0-<5 years old 2:5-<10 3:10-<15 4:15-<20 5:20-<25 6:25-<30 7:30-<35 8:35-<40 9:40-<45 10:45-<50 11:50-<55 12:55-<60 13:60-<65

	14:65-<70 15:70-<75 16:75-<80 17:80-<85 18:85-<110
Dcat	加重 DS02 骨髓線量区分 補正・打ち切りをした RBE = 10 の加重線量（ガンマ線量 + 10*中性子線量） 1:<0（線量不明） 2:0-<5 mGy 3:5-<20 4:20-<40 5:40-<60 6:60-<80 7:80-<100 8:100-<125 9:125-<150 10:150-<175 11:175-<200 12:200-<250 13:250-<300 14:300-<500 15:500-<750 16:750-<1000 17:1000-<1250 18:1250-<1500 19:1500-<1750 20:1750-<2000 21:2000-<2500 22:2500-<3000 23:3000+
Time	暦年時間 1:Oct1,1950-Dec31,1952 2:Jan1,1953-Dec31,1955 3:Jan1,1956-Dec31,1957 4:Jan1,1958-Dec31,1960 5:Jan1,1961-Dec31,1965 6:Jan1,1966-Dec31,1970 7:Jan1,1971-Dec31,1975 8:Jan1,1976-Dec31,1980 9:Jan1,1981-Dec31,1985 10:Jan1,1986-Dec31,1987 11:Jan1,1988-Dec31,1990 12:Jan1,1991-Dec31,1995 13:Jan1,1996-Dec31,2000 14 :Jan1,2001-Dec31,2001
Subjects	観察対象者数：はじめの時間区分における人数
Upyr	非補正観察人年
Pyr	補正観察人年
Gdist	人年加重平均地上距離（m）

Agex	人年加重平均被爆時年齢（歳）
Age	人年加重平均到達年齢（歳）
Year	人年加重平均年
Nhl	非ホジキンリンパ腫
HI	ホジキンリンパ腫
Mye	多発性骨髄腫
All	急性リンパ芽球性白血病
Oll	非白血性リンパ性白血病
Alltot	全急性リンパ性白血病
Cll	慢性リンパ性白血病
Hcl	有毛細胞白血病
Clltot	全慢性リンパ性白血病
Atl	成人T細胞白血病
Aml	急性骨髄性白血病
Oml	非白血性骨髄性白血病
Amol	急性単球性白血病
Amltot	全急性骨髄性白血病
Cml	慢性骨髄性白血病
othleuk	その他の白血病
Noncll	CLL,ATL を除く白血病
Leuktot	全白血病
Hldtot	全症例
mar_ad10	DS02 加重骨髄線量（mGy）
mar_ag	DS02 骨髄ガンマ線量（mGy）
mar_an	DS02 骨髄中性子線量（mGy）